

定年後の夢も、親の介護もあきらめない

夫婦で経営する地域密着型コミュニティショップ

2010年8月、東京都杉並区の小さな商店街の一角に「しえあ〜どぶれいす高井戸」といふショップがオープンした。この商店街を歩き来るのはほとんどが地元住民。「なんの店？」とげげ々な顔で通り過ぎ、そつと覗き込む。実は、団塊世代の夫婦が親の介護



しえあ〜どぶれいす高井戸

を続けながら、自分たちのやりたことを実現させるために創り上げた場所なのである。商品だけでなく、夫婦のこだわりがたくさん詰まったユニークなショップと、立ち上げまでの紆余曲折を紹介する。

夫婦の夢はいったん挫折

「しえあ〜どぶれいす高井戸」を運営しているのは木下利信さん（62歳）と百合子さん（62歳）夫妻だ。ここには二つの店が同居している。一つは妻が店長を務める「私のおはこ」、もう一つは夫が運営する「FP暮らしのコツ」だ。

「私のおはこ」の「おはこ」は「十八番」の意味。地域の十八番をもった人を応援するためのレンタルボックスと着物のリユース・リメイクコーナーから成り立っている。レンタルボックスとは店の棚を小さく区切って貸し出し、作品やコレクションなどを借り手に

代わって販売する仕事。店舗を構える資金的な余裕がない人や趣味で創ったものなどを販売してみたい人を後押しする仕組みだ。

一方、「FP暮らしのコツ」はファイナンシャルプランナー（FP）の資格をもつ利信さんが始めた個人向けの資産運用や税金、年金、保険の見直し、相続などの相談を受ける事業。相談コーナーは店の一番奥にある。利信さんは「妻が店長、私は店番」と笑う。

店のある場所が利信さんの実家だ。もとは米屋。一階を店舗にし、二階には利信さんのお母さんが要介

シニアライフアドバイザー
松本すみ子



(有)アリア代表取締役、NPO法人シニアわーくすRyoma21理事長。シニアライフアドバイザー、産科カウンセラー、キャリアコンサルタント。早稲田大学第一文学部卒業。IT業界に20数年勤務後、2000年に団塊/シニア世代の動向研究とライフスタイル提案、市場コンサルティングを行うアリアを設立。講演・執筆など多数。著書に『地域デビュー指図書〜再び輝く団塊シニア〜』（東京法令出版）、『そだったのか! 団塊マーケット』（経済法令研究会）など。



このカーテンで区切ると、利信さんの「FP暮らしのコツ」のスペース

護状態で寝ている。百合子さんと利信さんの姉が交替で介護をしている。二人は50代に入ったところから、定年後の人生プランについてよく話し合っていた。利信さんが60歳まで勤めあげた後は、夫婦二人三脚でできる社会貢献的なボランティア事業に取り組みたい。海外勤務の経験もあり、二人とも旅行好